

令和6年度第4回橿原市こども・子育て会議 会議録

日 時：令和7年2月13日（木） 16時00分から17時30分

場 所：大和信用金庫 八木支店 3階 第1会議室

出席委員：天根委員、山本委員、桐山委員、高西委員、田中委員、野呂委員、榎谷委員、
松井委員、三浦委員、柳本委員、吉川委員、原田委員、米澤委員、中川委員

欠席委員：伊瀬委員、北尾委員、木村委員、高瀬委員、椎名委員、森岡委員

事務局：松南副市長

【魅力創造部】村井田地域振興課長

【こども部】川田部長、池田副部長、清水副部長、門長副部長兼こども政策課長
大鳥こども家庭課長、岩本こども未来課長、
西岡こども政策課長補佐、竹内統括調整員、西迫統括調整員

【福祉部】北場福祉総務課長

【教育委員会事務局】樋上教育総務課長、鶴田学校教育課長、
宮田人権・地域教育課長

傍 聴 者：0名

配布資料：次第

座席表

- 【資料1】 橿原市第1期こども計画（案）パブリックコメント及び子どもの意見聴取実施結果と今後の対応
- 【資料2】 令和7年1月24日 庁内検討委員会でいただいたご意見と回答
- 【資料3】 パブリックコメント（結果）
- 【資料4】 子どもの意見聴取（結果）
- 【資料5】 パブリックコメント及び子どもの意見聴取でいただいた感想一覧
- 【資料6】 橿原市第1期こども計画
- 【資料7】 橿原市第1期こども計画 わかりやすい版
- 【資料8】 橿原市第1期こども計画 こども版
- 【資料9-1】 施策の実施状況（令和6年度上半期）
- 【資料9-2】 教育・保育と地域子ども・子育て支援事業の実施状況（令和6年度上半期）
- 【資料10】 令和7年4月1日開設予定 小規模保育事業所一覧
- 【当日資料1】 令和6年度第4回こども・子育て会議開催にあたり各委員よりいただいた事前のご意見
- 【当日資料2】 子どもの意見聴取 意見と感想一覧（追加）

次 第：1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 議事

- (1) パブリックコメント及び子どもの意見聴取結果について
- (2) パブリックコメント及び子どもの意見聴取結果を受けた
こども計画最終案について
- (3) 榎原市第2期子ども・子育て支援事業計画進捗報告について
- (4) その他
 - ・小規模保育所の定員設定について

4. 閉会

1. 開会

2. 副市長あいさつ

3. 議事

・天根会長

それでは、本日の議事に入らせていただくが、その前に一つだけ話をさせていただく。
パブリックコメントをいただいて、それを基にこども計画をどうするかが今日のメインとなるので、それに一番時間をかけて、皆様に審議をいただきたいと考えている。

私の家では正月2日にこどもたちがあつまり書き初めをやって、今年目標や決意を書くのが小さな文化としてある。今日はこの会で皆さんの一生懸命に考えた意見をまとめる日になると思う。ちょうど今年は巳年であり、脱皮をしながら大きくなる飛躍の年になると思っている。計画を発表、子育てがうまくいき、いいこどもたちが育って、榎原が伸びていく年にするための最後の会議となる。思っていることはどんどん言っていただき、それをまとめ世に出していきたいと思っている。

パブリックコメントの結果を見て、自分自身は迷っていることがある。こどもをまんやかに置くのが今回の趣旨だが、こどもを中心に意見を書いているものと親が自分の生活を中心にして書いている意見とがある。昔は学校卒業後に即戦力になってもらうため、工業高校をつくり、産業のために教育した時代があった。それが間違いと分かり、教育とは個人のためにおこなうものになってきた。パブリックコメントの結果を読むと、親が働くためにこどものことを書いているのか、あるいはそれが前提の上で子育てをどうするかなど、いろいろな形がある。子どもの権利条約の18条には、「子育ての責任はまず親である」とあり、それでこどもたちをどうするのか施策を考え、総合的にやっていかないといけないので、皆様のご意見を賜りたいと思う。

国の施策はこども中心となっており、いろいろな意見を聞くためにこの会議も拡大された。その最後の会議となるので、皆さんには見ていただき、議論していただきたい。それでは議事（１）について事務局から説明していただき、説明後に質問や意見を賜りたい。

・事務局

議事（１）、資料１で説明

・天根会長

今の説明で、小中学校の生徒から意見と感想があったが、皆さんもそうであったようにこどもは感想と意見の区別がつかなく、意見として言っているつもりが感想であるかもしれないが、それはやむを得ない。これについて意見、質問はあるか。

意見、質問がないようなので、次の議事へ進むが、必要なのは、この状況の中でどのような意見が出て、どのように反映していくかである。全ての意見を取り入れることは難しいので、計画として骨子を作り、各行政の担当があとで具体的なことを取り組んでいく形でやらないといけない。骨子という計画の中に入れられるものは入れていくという立場で考えていただきたい。

次の議事（２）について事務局から説明をお願いする。

・事務局

議事（２）、資料２、資料３、資料４、資料５、資料６、資料７、資料８で説明

・天根会長

いただいた意見と修正箇所について説明があったが、意見に関しては今後の施策に生かしていただきたい。立場によって意見が相対することもあり、悩むところもあるが、皆さんがそれぞれの立場で意見をいただければと思う。

事務局、何か追加で説明があるか。

・事務局

当日資料１で説明

・天根会長

今までの皆さんからの意見、庁内検討委員会、パブリックコメント、子どもからの意見聴取、また委員自身で集めた意見などをまとめて、最終的なものができてきているが、何か意見があるか。多岐にわたるので、自分に関わることを吟味していただければと思う。

ここでこの計画が承認されたら、次は議会の承認か。

・事務局

次はいただいた意見の最終調整をおこない、議会には報告のみで決議する内容ではない。

・天根会長

意見がないようなら次に進める。

・事務局

当日資料2で説明

・天根会長

学校行事の関係で遅れてきた子どもの意見・感想についてだったが、これも反映していただけるようである。

それでは簡単に委員の皆さん、それぞれから意見をいただきたい。

・榎谷委員

コメントを見させていただいているが、事務局がよくまとめていると思う。今後、これを理解していただけるように頑張っていきたい。

・松井委員

こども家庭庁がこども計画を各自治体に作らせる目的を分かりやすくしていただきたい。計画もほぼ出来上がってきたが、いかに市民に読んでいただくかは重要であり、行政のほうでもこの計画を十分に活用していただきたいと思う。

今回、こどもから細やかなアンケートをとっていただき、読ませていただいたが、面白いものもあった。子どもの権利について目にする機会を少しでもこどもに与えられたことは非常に意味があったことだと思う。

・三浦委員

よくまとめていただき、感謝する。ぜひ紙の上で終わらず、実際にやっていただくことを切に願う。

・柳本委員

私自身、2人のこどもを育てており、長男が中学3年生、次男が小学4年生であるが、次男のほうに先天性の難病があり、介助が必要な状態である。先生の協力をいただき、元気に地域の学校に通っているが、特別な支援が必要なこどもを育てる中でまだまだ不便だと思うことがとても多い。市の子育て応援サイトにも療育等の情報が記載されるようになって分かりやすくなったが、まだ医療的ケアが必要なこどもたちの放課後デイの情報が載ってい

ない状況である。近年、橿原市内でも増えているので、障がい福祉課と連携をして、子育て応援サイト側から障がい福祉課のほうにつなげる形をつくっていただきたいと思う。

・吉川委員

特に小学校1～3年生からたくさん感想をいただいております、市がどのように考えているかを小さな時から知ることとはとても大事である。そしていつかは自分がその中心に入っていきたいという声があがってくれば良いと思った。

・原田委員

本当にたくさんの感想をいただいた。今回、こどもたちがいろいろと回答しているが、それが反映されていることが見えないと、こどもたちはやったことを忘れてしまい、今回おこなった意味がなくなってしまう。常に計画の進捗が見える形だと、こどもも関心を持ち続けてくれるし、親も関心を持ってくれるようになると思うので、見える形で計画を進めていただきたい。

・米澤委員

この計画どおり進むことを一番期待しており、前回の会議ではもっと具体的な表現にできないのかと話させていただいたが、今の段階では難しいとしても、今後、どのように具体的に進めていくかが重要である。今回はこどもが行政に対して意見を表明できる機会であり、その先で大切なのが自分の意見に対してレスポンスがあるかどうかなので、ホームページなどで載せるだけでなく、教員が生徒一人一人にレスポンスがあったことを周知できる体制を築くことが重要だと思う。自分の意見が反映されていることをこどもたちに意識づけることができれば、主体性も育まれていくのではと思っているので、検討していただきたい。

・中川委員

書面で返すと読むこどもと読まないこどもがいると思うし、やっている大人側の仕事も見せる必要があると思うので、総括の部分だけでも短い動画にさせていただき、学校で見せ、どのように意見が反映されているかをこどもたちに伝えられれば良いと思った。

・野呂委員

私は3人のこどもがおり、東京で出産後、上の子が7歳の時に橿原市に引っ越してきたが、初めの1、2年は道が悪いなど、ささいなことの積み重ねで子育てしづらかった。段差のことも改善されないことが多いだけでなく、側溝の向きがベビーカーの車輪の向きになっており、東京ではそんなことを感じたことがなかった。徐々に暮らしやすくなってきたが、自分のこどもが大きくなったので気にならなくなっただけの可能性はある。今、公

園を管理する役割を担っており、公園緑地景観課に草木の伐採をお願いしてもなかなか来てもらえなかったり、担当課が複数あって整備が進まなかったりするのです、そのあたりもお力をいただきたいと思います。

・田中委員

いろいろなケースの中で、こどもたちが一番過ごしやすいまち、保護者にとっては育てやすいまちをつくるのが、目的であると思っている。それを実現して少子化に歯止めをかけることができるか分からないが、市のほうでいろいろと取り組んでいただければ、何年後には評価がでてくるので、よろしくお願いします。この「もっちー」は何か。

・事務局

よく見ていただいたら、私の顔である。課のほうでいろいろとキャラクターを考えていたが、ありきたりのキャラクターではなく、少し変わったものを出すことでこどもたちがおもしろがって興味を引けると思い、つくらせていただいた。単に自分が出したいわけではなく、意図があったことをご理解いただきたい。

・高西委員

こどもの発想力はすごいと思った。意見や感想を見ていたら、「仲間」という言葉が出てきたこともすごいと感じた。自分のこどもの学校では学級会というものを開いており、司会と副司会を決め、意見を言い合える場をつくるようになっている。自分は高取町出身だが自分がこどもの頃には学級会というものはなく、意見を述べる場はなかったので、今の小中学生は本当にすごいと思った。何かあるたびにこどもから意見や感想を聞くことはいいことだと思うので、今後も続けていただきたいと思います。

・桐山委員

ほかの自治体のことは知らないが、自慢できる計画ができたと思う。この計画をこどもたちが目にしたことが大きな一歩だと思う。こどもの意見を出すことに協力いただいた学校の方にもお礼を申し上げる。その一方で学校に登校しづらいこどもはどのような想いでこの計画をみたのだろうかと思ったが、計画をしっかりと見ていただければ勇気も出ると思うので、やはり自慢できるものだと思った。

計画は骨子の掲載でいいので、具体的な内容はその都度取り組んでいただければいいと会長が言われたがそのとおりだと思うが、分かりやすい版の9ページの「取り組みその3」の「今後必要となる取り組み」の一番下に「よい教育を受けられる環境をつくる」とあり、「よい教育」というところに引っかかった。骨子なのでいいが、具体的な取り組み中で「よい教育」というところを意識していただきながら、取り組んでいただきたいと思います。

・山本委員

各委員から評価があったが、まずは事務局が立ち上げからここまで作りあげたことを評価したいと思う。

少子化の中で子どもたちが豊かな人生を送るために一番必要なのは自尊感情だと思っている。子どもまんなか社会の大本になるのが自尊感情であり、それを重点施策の1番目に置いていただいていることは、橿原市のこども計画がいかにしっかりとしているものであるかを示している。皆さんの意見を参考にしながら、今後の施策を進めていただきたい。

・天根会長

今の話が、今日の一番のまとめになる話だと思う。文字に書いて表すだけなら、意味がなく、書いてないことも具体的に展開していくことが、本当の子育て会議の意義が出てくるのだと思う。全ての課が計画を基に、計画に書いていなくても、その方向に進んでいくために考えていったら、将来の橿原市を担う子どもたちの育成になると思う。隣の桜井市では「桜井 MORIMORI プラン」ということで、高校生から桜井市を盛り上げるための意見を募集している。年間 120 件の意見が出ており、すごいと思っている。若い人の意見を取り入れ実現していくことは、若者の人間形成に大きなプラスになると思うので、橿原市も今回のアンケートのように若者の意見を取り入れていくような市になっていただきたいと思う。

皆さんからの意見がまとまったので、この議事についてはこれで終わりとする。

次の議事（3）について事務局から説明をお願いする。

・事務局

議事（3）、資料9－1、9－2で説明。

・天根会長

じっくりと読んで、意見があればいただきたいと思う。

進捗状況を報告する時に、これでいいと思うのではなく、もっとより良くするためにどうしたらいいのかという発想に切り替えていただきたい。

次の議事（4）について事務局から説明をお願いする。

・事務局

議事（4）、資料10で説明。

・天根会長

今の説明に対して何か意見、質問はあるか。

・三浦委員

榎原市には保育所が受け入れ可能な月齢が0歳何カ月以上に設定するというような規定はあるのか。働く方には便利だと思うが、小児科医的にいうと、0歳3カ月以下のこどもを市町村が支援する保育所が受け入れることはいかなものかと思う。

・事務局

0歳6カ月以上がほとんどだが、園のほうで設定していることもあり、0歳6カ月未満のこどもを受け入れられるところは一部ある。

・三浦委員

具体的に0歳6カ月未満で預けている方はいるのか。養育や医療のことを考えると1歳児以上であってほしいと思っている。この計画にも関わることだが、0歳3カ月未満で預けられる市であることが非常にまずいのではないかと思う。

・事務局

最新の資料を持ち合わせていないが、1カ所預かることができる園があったと思う。また申し込みの中で0歳3カ月から預ける方の申し込みはない状況である。

・三浦委員

榎原市の人が御所市の園で0歳3カ月で預けられていた方がいたので、少し問題だと思う。

・野呂委員

東京では生後42日以下のこどもをお世話するために家に来てくれるような制度があったが、榎原市ではどうなのか。

・事務局

今、0歳3カ月以内のこどもを預かっている園があるかは分からないが、保育所で預かってもらえず、県外の職場の近くで預けている事例がある。そのような月齢で預けないといけないという生活実態など、いろいろな問題があると思う。今、榎原市では言われたような制度はないが、困り事の解決や子育てしやすい環境のため、前向きに検討していきたいと考えているので、今後ともご意見をいただきたいと思う。

・天根会長

0歳児の保育について、行政としては線引きが難しいところがある。預けないといけないという事情がある人を無視するわけにもいかず、何でも要望を聞くとこども・子育ての立場では問題があるし、負担になるのでお世話する人の働き方に関しても問題が出てくる。企業の保育施設でも設備が十分なところとそうでないところがあり、監督していただく必要があ

る。一概に何歳以上じゃないと、というのも違うので、意見を聞きながら様子を見て、うまく対応していただきたいと思う。

いろいろ議論していただいたが、保育に関してはよく連携・協議をしていただきながら会議をしていただければと思う。

ほかに意見がないようなら、これで承認ということにさせていただく。

議事については以上となるので、これで終わらせていただく。いろいろとご意見をいただき、感謝する。これからもよろしくお願いします。

あとは事務局に司会を返したいと思う。

・事務局

委員の皆様には貴重なご意見を賜り、感謝する。

これからの流れだが、最終的な確認を事務局でおこない、確定したら委員の皆様にご報告をおこなう予定である。長期間にわたり計画の策定にご協力いただき感謝する。

最後に1点だけ報告する。次年度の会議は秋と冬の2回を予定しており、日程は未定だが決まり次第、ご案内する。時間は同じ16時を予定している。また次年度以降は、計画の進捗管理がメインの議題となるので、よろしくお願いします。

委員に関しては令和6年2月1日付で委嘱させていただいている。これはこども計画の前の現行の第2期子ども・子育て支援事業計画と第3期子ども・子育て支援事業計画について審議をいただいていたが、今回こども計画を策定することとなり、新たに5人の委員を追加した。今後はこども計画の進捗に関する審議を行っていただくことになるため、次回改選のタイミングに合わせ、調整させていただく。

それでは、以上をもって令和6年度第4回こども・子育て会議を終了する。

閉会